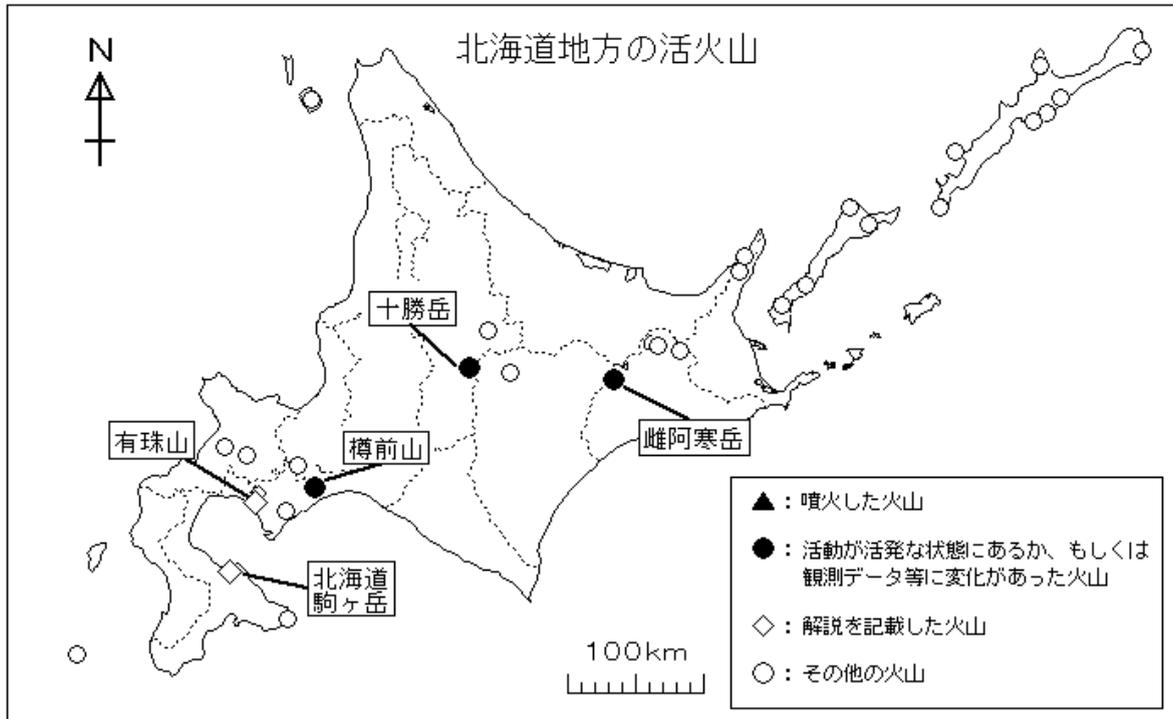


北海道地方の火山活動解説資料（平成 17 年 1 月）

札幌管区气象台 火山監視・情報センター



1 月の北海道内の火山活動は先月と比べて変化はなく、雌阿寒岳、十勝岳、樽前山ではやや活発な状態が続いています。

雌阿寒岳

ボンマチネシリ 96-1 火口は高温の状態が続いていると推定され、火山活動は引き続きやや活発な状態です。火口近傍では注意が必要です。

十勝岳

62-2 火口は噴煙活動が活発で高温の状態が続いていると推定され、火山活動は引き続きやや活発な状態です。今後も、2004 年 2 月と 4 月に観測されたような火山灰混じりの有色噴煙が見られる可能性があります。

樽前山

A 火口や B 噴気孔群は高温の状態が続いていると推定され、火山活動は引き続きやや活発な状態です。火口近傍では注意が必要です。

有珠山

火山活動は静穏な状態が続いています。

北海道駒ヶ岳

火山活動はおおむね静穏に経過しています。わずかな山体膨張や、2003 年 9 月以降見られている弱い噴気は引き続き観測されています。

また、1996 年から 2000 年までの間に小噴火が繰り返し発生しており 1929 年大噴火や 1942 年中噴火の前の状況に類似しています。しばらくは活動推移を見守る必要があります。

震源データ等の準拠する測地基準系移行のお知らせ

日本における位置情報（緯度、経度、高さ）のもとになる測地基準系は、平成14年4月1日に施行された改正測量法で、従来の日本測地系から世界測地系（測地成果 2000）に変わりました。

気象庁では、平成17年2月1日より、火山の位置、観測点、震源の位置を世界測地系に準拠したものに移行しました。これにより、平成17年2月1日以降に気象庁から公表・刊行等される火山の情報・資料は、特に日本測地系に基づくものである注記があるものを除いて、全て世界測地系に基づいたものになります。